

Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日本赤十字北海道看護大学

東日本大震災 〜日本赤十字北海道看護大学の活動〜

三月十一日に東北地方をはじめ東日本に甚大な影響を及ぼした東日本大震災に関しまして、お亡くなりになられた方々に心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

本学でも教職員及び学生ボランティアサークル等が、募金活動をはじめ、被災地での救護・ボランティア活動を実施しました。その概要をお知らせするとともに、被災地の一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。



学生ボランティア等の活動としては学生四十二名が三月十九日から四日間、北見市内の街頭で募金活動を行いました。大変多くの市民の皆様にご協力いただき、募金額は三百七十万六千五百三十円に達しました。

教職員については、成人看護学領域の尾山准教授が三月末に釜石市、四月中旬には陸前高田市に赤十字の救護班と併に、「こころのケア」要員として活動しました。

また、六月には学生支援課の望月主事が遠野市に災害対策本部要員として派遣され、陸前高田市の避難所で活動する救護班やケアチームへの物資調達や連絡調整などの後方支援活動を行いました。

さらに、八月上旬には、災害beatS研究会の学生四名と教員



二名が陸前高田市において、小中学生の学習のサポート・リクレーション、仮設住宅に入居した高齢者を対象としたリラクゼーションの集いのサポートを行いました。今後も継続的な支援が求められると思われるため、被災地のニーズを踏まえ、活動を行っていく予定です。



平成二十三年度 入学式



平成二十三年度日本赤十字北海道看護大学入学式が四月五日に挙行されました。新入生は大学院修士課程三名、看護学部百六名であり、入学生紹介に続いて河口てる子学長の式辞がありました。河口学長からは、このたびの東日本大震災の被災者へのお見舞いの言葉と赤十字社の対応についてのお話があり、また、「ありがとう」といわれるような技術を身につける喜びを感じて欲しい、そして、そのためには、四年間しっかりと学業に励んでいただきたいと、述べられました。

東日本大震災の対応のため出席いただけなかった大塚義治理事長からメッセージが届き、大震災のお見舞いに続き、本学園も日本赤十字社と連携して教職員も対応していること、そして、赤十字の理念を建学の精神とする本学で学ぶ意義を感じて欲しいと訓辞がありました。(河口学長代読)

また、小谷毎彦北見市長、および伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長(小澤實之郎日本赤十字社北海道支部評議員代読)からは清新な気持ち忘れずに常に向上心を持ち、国内外で活動できる看護師になっていただきたいとの祝辞をいただきました。

在校生代表の小林苗自治会長は、新入生が有意義な生活が送れるように一丸となって応援していることを語り、新入生を歓迎しました。最後に、新入生代表相場麻里奈さんが誓いの言葉を述べ、感動のなか閉式となりました。



学長就任のご挨拶



学長
河口てる子

はじめまして、この四月に学長に就任した河口です。

日本赤十字北海道看護大学の皆様には、広々とした北海道の青空の下、のびのびと学業に、スポーツに、ボランティアにご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、看護基礎教育は、四年制大学化が進み、看護師養成校の選択が「看護学校・看護短大」から「四年制大学」に移行しております。

この四年制大学化は、大都市圏だけでなく、北海道や東北、九州・四国でも看護大学への入学機会が増えており、既に全国で二〇校(学部単位)にもおよぶ看護系大学が存在しています。その中で本学は、赤十字の長い看護の歴史によって、humanityの高い理念と確かな実践から培われた「実践知」を持つ大学として、広く知られております。その実践力は、看護界を強力に引っ張っていくリーダーの養成を含んでおります。その力は、北海道のオホーツク地区に確かな看護ケ

アを伝え、多くの医療者とネットワークを組んで、安心して療養できる地域を作っていく能力を有しています。

赤十字のhumanityと培われた実

践知を生かすべく、本学はその実践のエッセンスを科学的に解明し、人々の幸に寄与するために日々地道に励んでいきます。

平成二十二年 卒業式

平成二十三年三月九日(水)、午前十時より、本学講堂において平成二十二年看護学部卒業式ならびに看護学研究科修了式が挙行されました。

開式の辞をもって式が始まり、出席者全員で御歌「四方の国」を起立斉唱し、続いて石井トク学長から卒業証書ならびに学位記が学部卒業生百四名(代表、角井希望さん)、修士学位記が研究科修了生十名(代表、看護学専攻 川南春美さん、助産学専攻 柳美樹さん)に手渡されました。

石井トク学長は式辞の中で、「何事も石の上の三年、最初の三年間を患者様からの共感を得られるように仕事に打ち込んでください」と述べて修了生、卒業生を励ました。来賓を代表し、大塚義治日本赤十字学園理事長、小谷毎彦北見市長、伊藤義郎日本赤十字社北海道支部長(中島昇事務局長代読)からお祝いの言葉を頂きました。在校生代表の中川千絵子さんが卒業辞を送り、寺田真梨子さんが卒業

生を代表して答辞を返しました。

卒業表彰、祝電の披露、卒業記念品、花束の贈呈と続き、最後に校歌を起立斉唱し、閉式の辞をもって式が終了しました。

式終了後はアリーナへと会場を移し、卒業記念写真の撮影が行われました。

同日午後六時より市内のホテル黒部において卒業祝賀会が催され、楽しい催しを織り交ぜながら、学舎での思い出深い四年間を教職員一同で振り返りました。



新任教員紹介



精神看護学領域
教授 石崎 智子

「岩木山・桜・ネプタ・林檎の街 弘前」から参りました。助産師としての臨床経験からか「人間」が大好きで、人間関係、人格の発達やこころの健康について、看護学だけではなく哲学・倫理学からの視点を含めた事象やかかわりに関心があります。看護学生の皆さんと「楽習」する喜びを分かち合いたいと考えています。

三十年程前に訪れた美幌峠からの眺望が忘れられず、そのオホーツクへの片思いが叶ったと喜んでおります。宜しくお願い申し上げます。



母性看護学・助産学領域
教授 岩田 銀子

この四月、札幌から北見の当大学に、母性看護学・助産学領域の特任教授として着任しました岩田銀子と申します。

早朝の小鳥の鳴き声や山脈の稜線の美しい北見の自然に癒されながら日々を送っています。でも、時々札幌の都会の空気が恋しくなります。

この三月迄の一年間は仕事をしないで毎日が日曜日の生活を送ってきましたので、忙しいサイクルを取り戻すことが大変でしたが、新たな環境で新たな人々や学生との出会いに喜びを感じています。

最近、唾液の指標を用いて、女性や妊産婦の不安やストレスなどを究明する研究を行っています。

趣味は合唱。今は中断していますが、年を重ねても色々な楽しみや生き甲斐を見つけていけたらと思っています。



小児看護学領域
准教授 志賀加奈子

小児看護学を担当させていただくことになりました志賀加奈子と申します。皆様の仲間に加えていただきますとも光栄です。私は、生まれも育ちもずっと北海道、なかでもオホーツク圏在住歴は十五年程になります。見た目は小型ですが厳冬にも耐える「道産子」のように粘り強く頑張りたいと思えます。小児看護学は、未来の一端を担う責任の重い領域だと考えています。看護師として子どもやご家族と力を合わせて健康問題に取り組むことは、難しいけれども楽しい毎日であることを学生に伝えたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



母性看護学・助産学領域
講師 市川きみえ

母性・助産学領域に着任しました市川きみえです。これまでは、長年、大阪の自然出産を推進する産婦人科で地域の母子保健活動に取り組んでまいりました。新しいいのちが誕生する場のその瞬間には、毎回言い尽くすことのできない感動があります。ひとのいのちの誕生も、北海道の大自然も、まさに神秘です。臨床経験は長いですが教育は初めてです。この地で、自然の恵みを体感しながら、いのちの重みを伝えていけたらと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。



地域看護学領域
講師 村上 智広

四月から地域看護学の教員として勤務しております。これまで、市町村保健師として、地域の人々と関わる楽しさや重要性を感じながら働いてきました。これらの経験をもとに、保健師活動の素晴らしさを学生さんと共有し、共に学び成長していきたいと思っています。今回、初めて看護教育に携わることとなり、未熟な面が多々ありますが、学生さんが保健師活動に興味や関心をもって学んでもらえるように頑張りたいと思っています。よろしくお願いたします。



成人看護学領域
助手 島内 良子

この度、成人看護学領域の助手として赴任いたしました、島内良子と申します。

私は、本学の五期生で四年間の臨床経験後、大学へ戻ってまいりました。

卒業して、早四年。本当にあつという間でした。演習や実習を通して、皆さんと接する中で、自身の学生時代を思い返すこともあり、懐かしさを感じつつ、新たな事に触れながら毎日過ごしています。日々、努力を重ね、学生の皆さんとともに自分自身も少しずつ成長していきけるようにと思っております。



母性看護学・助産学領域
助手 中山絵里子

母性看護学・助産学領域に四月から着任しました、中山絵里子と申します。生命誕生の素晴らしさに魅了され、助産師という職業を選択しましたが、北見の地で心機一転、教員としての第一歩を踏み出したところです。学生のみならず、生命の尊さや、ケアを通して人間的な成長を遂げられるように、お手伝いしていけたらよいと考えていますので、どうぞよろしくお願いたします。



母性看護学・助産学領域
助手 尾栢みどり

こんにちは。この春より、母性看護学・助産学領域の助手として着任いたしました尾栢(おがや)みどりと申します。私はこの大学の二期生で、卒業後は北見と東京で助産師として臨床経験を積んできました。教育の現場で働くのは始めてですが、学生の皆さんの先輩として、そして地元であるこのオホーツクに少しでも貢献できるような努力していくつもりです。助産師という仕事に少しでも興味がある方、気楽に話を聞きにいらして下さいね。



生活看護学(在宅)領域
助手 須田 彩佳

平成十六年に本学卒業後、保健師、外来看護師として勤務し、四月に生活看護学領域の助手として着任いたしました。

今、実習を通して学生と関わる中で、地域で生活していく方を支えるための広い視野や医療・福祉の関わる必要性を改めて感じ、「地域で生活する」ことについての知識をさらに深めていきたいと思っています。教育に携わることには初めてですが、学生皆さんの有意義な学びになるよう微力ながら努めていきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いたします。

救急患者のケアマネージメント

実践講座開催される

看護開発センターでは一月十五日(土)から八回シリーズで「救急患者のケアマネージメント実践講座I」を開催いたしました。この講座は、救急医療に携わる看護師が情報収集を含むアセスメント能力や実践力を向上させられることを目的に企画しています。

第一回は富山大学の奥寺敬教授に「わが国の救急医療の現状と救急外来トリアージ導入のすすめ」というテーマでご講義頂きました。この講義は公開講座として市民の聴講も可能であったため、多数の参加者が見受けられました。奥寺

教授は救急医療と地域医療の接点についても言及されており、興味深い内容でした。

第二回から第八回目にかけては救急医療における看護に関する各論を、講義と実習の組合せで展開しました。救急外来受診に関する電話相談や救急車に乗車した搬送など、受講者にとっては貴重な体験になったようです。最終日には閉講式を執り行い、全日程に参加した受講生に対して修了証書を授与しました。受講生の皆様が各地でご活躍されることを期待しております。

第三回 北網地区医療従事者交流研修会

一月二十二日に開発センター主催の第三回北網地区医療従事者交流研修会「オホーツク地域の安全なお産を考える」が開催され、オホーツク地域の助産師、看護師、医師、救急救命士の七十一名が参加しました。網走厚生病院の小児科医師立花幸晃をお招きして、二〇一〇年に改正された「新生児蘇生法」ガイドラインについて講義していただくとともに、人形を用いて実技演習を体験しました。

実技演習では、新生児蘇生学会が承認している研修を受講済みの本学山口講師、田中講師、北見市の救急救命士、看護師などが協

力して、参加者全員が人形を用いた新生児蘇生法を体験し、新生児が急変したときの場面に備え、学習しました。また、医師不足が深刻な島根県隠岐諸島の隠岐病院で産婦人科医師として活躍している加藤一朗さんが僻地医療について講演し、助産師が医師と連携していくことの重要性を述べられました。参加者は、その後、オホーツク地域における安全な出産体制づくりについて他職種間で意見交換をして交流を深めました。

本学の平成22年度国家試験合格状況

	受験者数	合格者数	合格率 (%)	合格率 (全国%)
看護師	104	104	100.0	96.4
保健師	97	83	85.6	89.7
助産師(学部)	3	3	100.0	98.2
助産師(大学院)	6	6	100.0	

平成23年度入試概況

試験区分 募集人員等	推薦入学試験		一般入学試験	大学入試センター試験 大入試	社会人入学試験
	公募推薦	指定校推薦			
募集人員	35名	10名	45名	10名	若干名
志願者数	91名	10名	221名	104名	9名
受験者数	91名	10名	216名	104名	9名
合格者数	44名	10名	79名	36名	2名
実質倍率	2.1倍	1.0倍	2.8倍	2.9倍	4.5倍

学生表彰JUNISU

学生表彰の受賞者が決定し、表彰式が行われましたのでお知らせします。学生表彰は、一年次から四年次までの成績上位者三名程度の卒業表彰と前年度の総合成績の最上位者の学生表彰があります。卒業表彰の受賞者は、卒業式において表彰され、記念品と奨学金が贈呈されました。また、学年表彰は、四月二十七日、学長室において執り行われ、奨学金が贈呈されました。平成二十二年卒業表彰 角井 希望さん 寺田真梨子さん 山下 朋恵さん 平成二十三年卒業表彰 田村 浩美さん(二年) 佐藤久美子さん(三年) 渡邊 彩香さん(四年)

平成22年度卒業生の進路について

	道内	道外	合計
日赤関係	63	8	71
国立医療機関	2	3	5
大学附属病院	9	1	10
公的・各種団体医療機関	7	0	7
医療法人	5	0	5
個人	0	0	0
行政機関	2	0	2
助産所	0	0	0
進学	4	0	4
その他	0	0	0
合計	92	15	104

【日赤関係内訳】
北見赤十字病院 十四名、釧路赤十字病院九名、旭川赤十字病院十八名、釧路赤十字病院三名、小清水赤十字病院一名、函館赤十字病院四名、清水赤十字病院一名、伊達赤十字病院二名
【北海道内】
仙台赤十字病院一名、神戸赤十字病院二名、姫路赤十字病院一名、横浜市立みなと赤十字病院一名、武蔵野赤十字病院一名、名古屋第一赤十字病院一名
【進学】
日本赤十字北海道看護大学大学院助産学専攻三名、北海道教育大学函館校看護教諭特別科一名
【北海道外】

教職員人事

職名	氏名	採用	退職
教授	石崎 智子	採用	退職
教授	岩田 銀子	採用	退職
准教授	志賀加奈子	採用	退職
講師	村上 智広	採用	退職
講師	尾栢みどり	採用	退職
講師	島内 良子	採用	退職
講師	中山 彩佳	採用	退職
講師	須田 彩佳	採用	退職
講師	高橋 理恵子	採用	退職
講師	林 佳子	採用	退職
講師	板垣 喜代子	採用	退職
講師	井上 由紀子	採用	退職
准教授	松村 三千子	採用	退職
准教授	日隈 茂子	採用	退職
教授	休波 清美	採用	退職
教授	小野 愛子	採用	退職
教授	澤田 トク	採用	退職
教授	石井 陽子	採用	退職

編集後記

東日本大震災により被災された方々へ心からお見舞い申し上げます。Viva Kango第三十一号をお届けします。ご一読いただければ幸いです。



日本赤十字北海道看護大学学内誌
Viva Kango
第31号

発行日/2011年8月31日
編集・発行/広報委員会
〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to : kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp